

福岡県保健医療介護部
がん感染症疾病対策課感染症対策係
長田、中村
内線 3079・3080
直通 092-643-3268

麻しん患者の発生について（第5報 続報）

平成30年5月15日にお知らせした、筑紫保健福祉環境事務所管内で発生した麻しん患者について、詳細が判明しましたので、お知らせします。

1 患者

【平成30年8例目】（続報 下線部が追加情報です）

（1）年齢等

20歳代、女性、大野城市在住
ワクチン接種歴は不明

（2）経過

5月9日 午前8時頃、春日市内の小売店Gを利用

午後7時半から午後8時半頃、春日市内の小売店H、Iを利用

5月10日 発熱、鼻汁、関節痛、倦怠感が出現

5月11日 医療機関Jを受診

5月12日 咳、発疹が出現

春日市内の小売店Kを利用

5月13日 昼、春日市内の小売店L、Mを利用

5月14日 医療機関Bを受診し、一旦帰宅し、医療機関Jを受診、医療機関Bを紹介

さ

れ、医療機関Bを受診、臨床症状から麻しんと診断し、発生の届出

5月15日 県保健環境研究所にて遺伝子検査を実施し、麻しん陽性が判明

2 行政対応

筑紫保健福祉環境事務所、糸島保健福祉事務所、早良保健所及び城南保健所において、患者、家族及び医療機関等に対し健康調査、疫学調査を実施し、二次感染予防の指導を行っています。

なお、患者の行動履歴等、詳細については調査中です。

《県民の皆様へ》

- 症状（別紙参照）から麻しんが疑われる場合、事前に医療機関へ電話連絡の上、速やかに受診してください。
- 受診の際には、感染を拡大させないように公共交通機関等の利用は控えてください。
- 麻しんウイルスの空気中での生存期間は2時間以下とされています。現時点で患者が利用した施設等を利用されても、当該患者を原因とする麻しんウイルスに感染することはありません。

《医療機関の皆様へ》

- 発熱や発疹を呈する患者が受診した際は、麻しんの予防接種歴の確認等、麻しんの発生を意識した診療をお願いします。
- 患者（疑い含む。）は、個室管理を行う等、麻しんの感染力の強さを踏まえた院内感染対策を実施してください。
- 臨床症状等から麻しんと診断した場合には、速やかに保健所へ届け出てください。

お 願 い

※ 報道機関各位におかれましては、患者及び患者家族等について、本人等が特定されないことがないよう、格段の御配慮をお願いします。

【表1 これまでの患者情報】

No	年齢	性別	居住地	予防接 種歴	発症日	検査確認日	備考
1	非 公 表						二次感染なし
2	20代	男性	春日市	1回	4月27日	5月2日	流行地へは行ってない
3	30代	男性	福岡市 博多区	不明	5月10日	5月11日	No2と医療機関で接触 した可能性
4	3歳	男性	大野城市	無	5月9日	5月12日	No2と医療機関で接触 した可能性
5	30代	女性	福岡市 南区	不明	5月10日	5月13日	No2と医療機関で接触 した可能性
6	10代	男性	春日市	無	5月8日	5月13日	No2が利用した小売店 で接触した可能性
7	30代	女性	春日市	1回	5月11日	5月14日	
8	20代	女性	大野城市	不明	5月10日	5月15日	
9	2か月	女性	福岡市 城南区	無	5月13日	5月15日	No2と医療機関で接触 した可能性

麻しん（はしか）について

- 麻しん（はしか）は、麻しんウイルスによる感染症です。
- 感染力がきわめて強く、麻しんの免疫がない集団に 1 人の発症者がいたとすると、12～14 人の人が感染すると言われていています（インフルエンザでは 1～2 人）。
- ほぼ 100% の人に症状が現れますが、一度感染して発症すると一生免疫が持続すると言われていています。

《症状》

- 麻しんウイルスに感染して 10～12 日後に、発熱や咳などの症状が現れます。
- 38℃前後の発熱が 2～4 日間続き、倦怠感、上気道炎症状（咳、鼻水、くしゃみなど）、結膜炎症状（結膜充血、目やに、光をまぶしく感じるなど）が現れて次第に強くなります。
- 発疹が現れる 1～2 日前ごろに口の中の粘膜に 1mm 程度の白い小さな斑点（コプリック斑）が出現します。コプリック斑は麻しんに特徴的な症状ですが、発疹出現後 2 日目を過ぎるころまでに消えてしまいます。
- コプリック斑出現後、体温は一旦下がりますが、再び高熱が出るとともに、赤い発疹が出現し全身に広がります。
- 発疹出現後 3～4 日で回復に向かい、合併症がない限り 7～10 日後には主症状は回復しますが、免疫力が低下するため、しばらくは他の感染症に罹ると重症になりやすく、体力などが戻るのに 1 か月くらいかかることも珍しくありません。
- 麻しんに伴って肺炎、中耳炎、脳炎などさまざまな合併症がみられることがあります。特に脳炎は、頻度は低い（1000 人に 1 人）ものの死亡することがあり、注意が必要です。

《感染予防とまん延防止のために》 ～一人ひとりが気をつけましょう～

- 麻しんは、感染力がきわめて強いことから手洗いやマスクのみでの予防はできませんが、予防接種（ワクチン接種）を行うことによって、95%以上の人が免疫を獲得し、予防することができます。
- 予防接種は、自分が感染しないためだけでなく、周りの人に感染を広げないためにも有効です。
- 医療・教育関係者や、海外渡航を計画されている方は、麻しんの罹患歴や予防接種歴を確認し、明らかでない場合は予防接種を検討してください。
- 麻しんの予防接種歴がない方で、発熱、咳、鼻水、眼球結膜の充血等 麻しんに特徴的な症状が現れた方は、事前に医療機関に電話で連絡し、指示に従って受診してください。その際、症状出現日の 10～12 日前（感染したと推定される日）の行動（海外の流行地や人が多く集まる場所へ行ったかどうか等）について、医療機関にお伝えください。

《麻しんの予防接種について》

～1 歳になったら 1 回、小学校入学前の 1 年間にもう 1 回予防接種を受けましょう～

「生後 1 2 月から生後 2 4 月に至るまでの間にある者」及び「5 歳以上 7 歳未満の者であって、小学校就学の始期に達する日の 1 年前の日から当該始期に達する日の前日までの間にある者」は、予防接種法に基づく定期の予防接種を受けることができます。

- ※ 接種を希望される方は、お住まいの市町村の予防接種担当課にお問い合わせください。
- ※ 定期の予防接種の対象者以外の方で、麻しんの予防接種を希望される場合は、予防接種法に基づかない任意の接種で受けることができます（費用は自己負担となります）。医療機関の医師にご相談ください。
- 麻しんの流行がみられる国に渡航される方は、予防接種をご検討ください。なお、海外の流行情報は検疫所のホームページ（<http://www.forth.go.jp/>）で確認することができます。